



今夏の参院選で選挙権年齢が「18歳以上」に引き下げられるのを... 重要性が増している。青森県南の各校では、県選挙管理委員会による出前講座の活用や授業での導入が進む。中には参院選そのものを題材にした校内での模擬投票を検討したり、身近な生徒会選挙を充実させたりする学校もあり、現場での試行錯誤がつかえる。

(金澤一能、福田駿)

生徒会選挙充実

参院選模擬投票

授業に組み入れ

出前講座を活用

# 試行錯誤

## 青森県南の高校

選挙権年齢引き下げを巡って、2015年6月に公職選挙法が改正され、次期参院選から適用される。国は副教材を高校に配るなどして、取り組みを促している。

「中心街をショッピングセンターに」「全ての人に優しい街づくり」「スポーツで活性化」。八戸学院光星では、2日、県選挙の出前講座で、3年生345人が中心街の振興策を争点とする模擬選挙に臨んだ。

生徒は3人の架空候補の公約を見比べ、投票所へ。投票

# 主権者教育



青森県選挙管理委員会による出前講座で模擬選挙を体験する生徒  
2日、八戸学院光星

話といった「集会型」と、授けた模擬投票を検討中。実際の候補者の公約を並べ、全校習など「授業型」の対応を準備する学校が多い。

参院選までに県選挙の出前講座を企画する高校は実業系が目立つ。ただ、県選挙は5月下旬から選挙準備に入り、約の内容などに関して、いか受け入れをしばらく休止。数に議論を進めるのか、本番の選挙結果が確定する前に開票できないなど、運営には難しい。出前講座など集会の活用も視野に入れるが、選挙の時期にとらわれず、在学中に1回受け取るような形を取る。

一方、八戸工大二は従来より踏み込み、県選挙や専門家の助言を受け、参院選に合わせた模擬投票も学習の場だ。田子や百石などは、町の選挙から投票箱を借りて本番に近い形で投票しており、選挙について考えるきっかけにしている。